

自民山陰4議席独占



【上】9選を遂げ、安倍晋三首相(左)とともに花をつけて喜ぶ細田博之氏＝14日午後9時43分、東京・永田町、自民党本部
【左】6回目の当選を果たし、喜ぶ竹下亘氏＝14日午後8時26分、東京・永田町、額賀派事務所

島根

1区 細田氏大差で9選 2区 竹下氏新人圧倒

△1区▽ 名度で、民主党の和田章一、2年の前回選に比べ0.4%。上代氏は前回選の党公認候補に比べ3.1%。自民党前職の細田博之氏の両新人に大差をつけた。得票率は、細田氏が20.1%、公認候補より2.7%低い。

第47回衆院選が14日投票開票され、山陰両県4小選挙区は自民党前職が全勝し、議席を独占した。島根1区は細田博之氏「公明党推薦」が、民主党新人の和田章一郎氏「社民党推薦」と共産党新人の上代善雄氏を退けて、9選を果たした。2区も竹下亘氏「公明党推薦」が、社民党新人の山本善氏「民主推薦」と共産党新人の向瀬慎一氏を抑え、6選。島根1区は石

破茂氏「公明党推薦」が10選、2区は赤沢亮正氏「同」が4選を決めた。民主、社民両党の3候補は、重複立候補した比例中国ブロックでも復活できなかった。投票率は、島根が前回選に比べて6.50%減の59.24%、鳥取は8.54%減の54.38%で、ともに戦後最低を記録した。



たけした 竹下

わたる 亘(自民、前)
(維公明)

当選者 敬称略



ほそだ ひろゆき 細田 博之(自民、前)
(維公明)

党幹事長代行。旧通産省に入省。退職後、父の故・細田吉蔵元運輸相の秘書を経て1990年に衆院選、旧島根全県区で初当選。官房長官、党幹事長を歴任。東京大法学部卒。松江市堂形町。当選9回。

1区 (14日午後10時52分、選管最終)			
当93,105票	石破 茂 57	自前	
22,888票	塚田 成幸 50	共新	
2区 (14日午後10時58分、選管最終)			
当76,579票	赤沢 亮正 53	自前	
49,297票	湯原 俊二 52	民元	
10,270票	福住 英行 39	共新	

鳥取選挙区開票結果



あかざわ りょう 赤沢 亮正
(自民、前)
(維公明)



いしはら しげあき 石破 茂
(自民、前)
(維公明)

内閣府副大臣。1984年、運輸省(現国土交通省)入省。旧日本郵政公社を経て、2005年の衆院選鳥取2区に立候補し、初当選した。東京大学法学部卒。米子市日ノ出町1丁目。当選4回。

地方創生担当相。銀行員を経て1986年の衆院選で初当選。防衛相、農相、党政調会長などを歴任。2012年9月、9月から現職。慶応大法学部卒。鳥取市上町。当選10回。

鳥取

1区 石破氏盤石の10選 2区 赤沢氏手堅く制す

△1区▽ 自民党前職の石破茂氏が、高い知名度と厚い支持基盤を生かして共産党新人の塚田成幸氏を圧倒し、10選を遂げた。得票率は80.3%。前回(84.5%)同様、自民党の不戦敗も相まって高票をたたき出した。石破氏は、自ら指揮を執る地方創生をアピール。公明党のほか、建設、農業など150以上の党支持団体から推薦を得たものの、突然の解散による短期決戦となり、支持固めの徹底に腐心。閣僚として各地の応援に回りながら、2度地元入りして支持者を鼓舞した。塚田氏は、集团的自衛権行使容認の撤回などを訴えた。

△2区▽ 石破氏との対決姿勢を鮮明にする一方、候補擁立を断念した民主の支持層にも食い込んだが浸透しきれなかった。

自民党前職の赤沢亮正氏

石破氏との対決姿勢を鮮明にする一方、候補擁立を断念した民主の支持層にも食い込んだが浸透しきれなかった。石破氏と民主の対決は、強固な組織を生かした赤沢氏が幅広い層から支持を集め、大差で4選を果たした。共産党新人の福住英行氏は支持の広がりを欠いた。赤沢氏は、安倍政権の経済政策「アベノミクス」の継続を主張。短期決戦の中、地域支部と県議会市町村議後援会が円滑に連携した。公明党の推薦を得たほか、安倍政権の農政改革に揺れるJAの推薦を取り付け、盤石の組織戦を展開した。湯原氏は境港の拠点整備など党時代の実績に加え、戸別所得補償制度の復活を唱え、支持の広がりを狙った。だが、民主政権時代の混乱の記憶は有権者に色濃く、今回から2区に編入された湯原氏町での運動も赤沢氏に後れを取った。福住氏は原発廃止などを訴え、自共対決の雰囲気醸成に努めたが、存在感を示すには至らなかった。

比例中国 共産11年ぶり議席

山陰民・社 公明・斉藤氏8選

比例中国ブロック(定数11)は、自民党が5議席、公明党は2議席でそれぞれ改選前を維持した。2012年の前回選で4減となった民主は改選前と変わらず2議席とどまり、これに對する共産党が1議席を獲得し、03年に失って以来、11年ぶりに取り戻した。維新の党は1議席、次世代の党、社民党は、幸福実現党は議席ゼロに終わった。山陰両県関係では、小選挙区と重複立候補した民主党元職の湯原俊二氏(52)が鳥取2区で惜敗率64.37%、同党新人の和田章一郎氏(67)が、島根1区で同38.20%に終わり、復活当選を果たせなかった。島根県島南町出身の、8選を果たした。

テレビ欄は14面

を懸けた前回選ほどの運動量はなかったが、得票率65%を目標に掲げて票の掘り起しを図り、選挙区内の全9市町村で勝利を収めた。これに対し、和田氏は「アベノミクスで都市と地方の経済格差が拡大した」と徹底した安倍政権の批判を展開し、民主党政権時代の政策復活をアピール。社民党と連合島根の推薦を得たが、出選後に伴う知名度不足が響き、浸透しきれなかった。上代氏は、消費税率の再引き上げの反対や、原発の即時廃炉などを強調。安倍政権の批判票獲得を狙った。自民党前職の竹下亘氏が、厚い支持基盤を生かし組織戦を展開し、社民党新人の山本善氏と共産党新人の向瀬慎一氏を下した。得票率は、竹下氏が20.1%、2年の前回選より1.5%上昇の69.2%、向瀬氏も3.3%上がり11.5%と、一方、山本氏は19.3%と前回選の民主公認候補より4.8%下回った。復興相の竹下氏は、自民党の他候補の応援で全国を飛び回り、選挙区入りは最終日のみ。急な解散で支持が揺らぎ、選挙区入りは1週間前と遅れた上、連合島根が支持にとどめるなど、非自民・非共産勢力の共闘が機能しきれなかった。向瀬氏は、訴えが似通った山本氏の立候補が影響。政助助成金や企業・団体献金を受けていない唯一の政党であることを強調し、環太平洋連携協定(TPP)参加に反発する農家を回り、自民支持層の切り崩しを狙ったが、浸透しなかった。